

第1回目黒区産業振興ビジョン改定懇話会

日時 平成29年9月27日(水) 18時30分～20時40分
場所 目黒区役所総合庁舎大会議室
出席者 (委員)
黒瀬会長、因幡委員、岩井委員、奥角委員、柏井委員、小杉委員、諏訪委員、
相馬委員、團村委員、平江委員、佐々木委員、高野委員、日比野委員、金阿彌委員、
後藤委員、原島委員
(区側・事務局)
産業経済部長、産業経済・消費生活課長、他6人
傍聴者 なし

配布資料 資料1:目黒区産業振興ビジョン改定懇話会要綱
資料2:目黒区産業振興ビジョン改定懇話会委員名簿
資料3:目黒区産業振興ビジョン 実施状況
資料4:目黒区の産業に関するデータ集 概要
資料5:目黒区の産業に関するデータ集
資料6:産業振興に関する事業所意識調査
資料7:産業振興に関する区民意識調査

議事

1 開会

2 区長あいさつ

目黒区産業振興ビジョンが平成22年に策定されてから相当年月が経っており、その間、様々なことが起きている。世間ではオリンピック・パラリンピック東京大会の決定と消費増税が大きな出来事だ。政策面では、産業競争力強化法や都市農業振興基本法の制定もあった。

目黒区においては平成25年に東急東横線と東京メトロ副都心線が乗り入れ、利便性が高まった。一方、商店会やその加盟店舗が大きく減少している。

様々な変化を踏まえ、オリンピック・パラリンピックも開催されることから、現行計画の最終年度は平成32年度だが、2年前倒ししてビジョンを改定することとした。

3 出席者紹介

各委員が自己紹介を行った。

4 会長、会長代理の選出

委員の互選により黒瀬委員が会長に選任された。会長より、岩井委員が会長代理に指名された。

5 報告事項

事務局が、資料1を用いて懇話会の運営について説明を行った。

6 議事

(1) 目黒区産業振興ビジョンの実施状況について

事務局が、資料3を用いて目黒区産業振興ビジョンの実施状況について説明を行った。

- 会長 大変多くの事業が行われていることは分かったが、5つの方針それぞれについて、どのような変化ないしは成果があったのか。新しいビジョンの検討にあたっては、現在のビジョンの成果を知っておくことが重要だ。そのための準備はしているか。
- 事務局 今回は、過去2年間の実施状況をまとめている。それ以前の実施状況も踏まえ、各方針の成果についても検証したい。
- 会長 5つの方針について、最近の動向や目黒区の実状について委員から情報を提供いただきたい。商店街に関して何かないか。
- 委員 商店会が減っていることが大きな流れだろう。目黒区は幸いにも地方のようなシャッター商店街はない。が、地価が高いことから、店が承継されず、テナントに貸しているケースもある。特に駅周辺が顕著だ。また、子どもが店を継いだとしても、商店会活動には熱心ではないという状況もある。
- 委員 店の承継については、子どもが望んでも、親が継がないように促す例もある。また、個々の経営面について気になるのは、商店会に経営の相談をしてこないことだ。かなり状況が悪くならないと商店会に相談されることはない。商店会から個々に声をかけることは難しいので、区が仲介してくれるとよい。
- 委員 自分は、商店街振興プランを若手で策定しようとしたときに関わった世代だが、いまはその世代が区商連の事務局等の立場になっている。区商連は改善されてきていると思うが、区内の商店会は減っている。一方、駅前の商店会は発展してきているのは、区の支援もあったからだと思う。それは評価するべきだが、一方で、実施できていない施策もある。何らかの外的要因によって実施できなかったケースもあると思うので、取捨選択をすればよいと思う。
- 委員 消費者団体は安全・安心や環境を重視しているが、商店会もそのようなテーマに取り組めば、魅力が高まると思う。若い人は安さだけでない価値を求めているので、商店会の取組次第では地元での消費を増やせると思う。商店会と消費者団体の連携はほとんどないが、そのようなことに取り組めるとよい。
- 会長 消費者団体と商店会の結びつきが弱いという意見が出された。そのようなこともビジョンに盛り込めるか検討していけるとよいと思う。

(2) 目黒区の産業に関するデータ集 概要について

事務局が、資料4を用いて目黒区の産業に関する統計データについて説明を行った。

委員 小売吸引力指数が0.72となっており、減少傾向にあると説明があったが、原因は何と

- 考えるのか。武蔵小杉駅周辺の開発なども関係があるのか。特別区間で比較しているが、川崎市や横浜市との比較は必要ないか。
- 事務局 そもそも1.0を下回っていたので、渋谷区などで消費されていたのだと思うが、近年は郊外のショッピングモールも利用されているのだろう。川崎市、横浜市の影響は検証したい。
- 委員 統計データをまとめた資料では、特に工業については産業分野の説明があった方がよい。
- 事務局 そのようにする。
- 会長 目黒区にはソフトウェア産業の事業所があってもよいと思っているので、その観点から分析を行ってほしい。
- 事務局 了解した。次回、情報提供を行いたい。

(3)意識調査について

事務局が、資料6・7を用いて調査について説明を行った。

- 会長 事業所意識調査について意見をいただきたい。
- 委員 事業分野(問2)の選択肢にある「不動産業」は、賃貸業は含まれているのか。
- 事務局 そのように理解いただきたい。
- 会長 分かりやすくするために、補足説明をした方がよい。
- 事務局 了解した。
- 委員 女性の雇用・就業のために必要な取組に関する設問(問23)の、母体保護の取組に関する選択肢があるが、ハード面の環境整備も含まれるのか。それともソフト面だけの整備か。選択肢として明確に分ける必要はないか。
- 事務局 ハード面とソフト面の両方を包含する想定だったが、それぞれ選択肢を設ける必要性については検討したい。
- 委員 母性保護のための環境整備について、ハードとソフトそれぞれのニーズを個別に把握した方が施策検討にとって有効だと思う。検討いただきたい。
- 委員 事業承継の現状に関する設問(問24)の選択肢に「売却」という言葉があるが、何を売却するのか。明確にした方がよい。
- 会長 中小企業の事業承継ではM&Aもある。そのようなイメージなのではないか。
- 事務局 そのように理解いただきたい。
- 委員 そうだとすれば、より分かりやすい言葉づかいにした方がよい。
- 委員 オリンピック・パラリンピック関連の取組を聞く設問の選択肢に「新規分野への進出」とあるが、他の選択肢としてある「新商品・新サービスの開発」との違いが分かりにくい。前者は異分野に進出するという意味か。
- 事務局 そのように理解いただきたい。
- 会長 それであれば「異分野への進出」の方が分かりやすい。関連する質問になるが、インバウンドに関わる取組について、区内事業者の現状はどのようなものか。

- 委員 目黒区に訪れる外国人旅行者は多くないと思う。
- 委員 他のエリアは分からないが、自由が丘駅周辺に関しては外国人は増えている。
- 会長 オリンピック・パラリンピックに関係なく、外需を呼び込まないといけないので、商店会によるインバウンドの取組を聞く設問があってもよいのではないかな。
- 委員 技術的な専門性が必要となるケースがあるかどうかを聞いてもらいたい。区内には東京大学や東京工業大学のキャンパスがあるので、連携のニーズとして把握できると施策を検討する上で有効だろう。
- 事務局 事業転換・新規事業の立ち上げ時の外部との連携について聞く設問(問15)にて、産学連携に関する選択肢があるが、他にも盛り込みたい。
- 委員 既存の区の事業や制度についてニーズを聞く設問(問35)はあるが、どのような支援を必要としているのかも自由回答形式で尋ねた方がよいのではないかな。また、女性の雇用・就業について必要なこととしては保育園の設置が挙げられると思うが、それは選択肢に含まなくてもよいのかな。
- 事務局 事業所が必要とする支援については既存の設問(問36)で対応したいと思う。問35は事業所としての取組を聞くことが目的なので、保育園の整備を選択肢として取り上げるとは難しいと考えている。
- 委員 産業分野に関する設問(問2)には選択肢に農業が含まれていないが、どのような意図からか。
- 会長 農業を追加する意義はあると思う。主たる事業でなくても農業を営んでいる人はいるのではないかな。
- 事務局 調査対象は2,000件であり、区内の農家や農業関係の事業者が少ないことから統計的に有意な情報が得られるとは思えない。農業者には個別にヒアリングを行うことを検討しており、個別具体的に意見を聞き、施策にも反映できると考えている。
- 委員 女性の雇用・就業のために必要な取組を聞く設問(問23)だが、選択肢を再考した方がよいのではないかな。すでに法律も施行されており、制度化されてもいる。また、区内には女性の経営者も少なくない。選択肢の考え方が古いように思う。
- 会長 設問の意図としては、法制度面は進んでいるが実態が追いついていないので、それを解決したいのだろう。ただ、そうであれば、選択肢がミスマッチであるように思う。また、言葉づかいもやや古いので検討いただきたい。
- 委員 区民意識調査について、何か意見はあるか。
- 委員 農業に関する設問がいくつかあるが、体験農園に特化せず、農業に対するイメージや関わり方について広く聞く設問があってもよいのではないかな。区がどのような農業を目指すのか参考になると思う。農業者がどのように関わっていけるのかも念頭に置きながら、区が農業に取り組むようなことも聞いてもらいたい。
- 事務局 前向きに検討する。
- 委員 区内の「行きつけの店」「なじみの店」を聞く設問(問10)は、選択肢が限られているので回答しにくい。再考いただきたい。
- 事務局 細分化することは難しい。その他を設けて、自由に書いてもらえるようにするなど、検

討したい。

委員 最近のトレンドが読み取れないのではないかな。

委員 業種の切り分けも検討が必要だ。耐久消費財を取り扱う店舗は区内に多くはない。

会長 業態が選択肢に表現されていない。この設問はどのような意図から設けているのか。

事務局 買い物や外食でよく使う場所を聞く設問(問8)からの一連の設問となっている。問8では区内の商店街がどの程度使われているのかを把握し、その理由を次に尋ねている。さらに問10では、「行きつけの店」「なじみの店」という言葉をあえて使って、区内での消費の深さを把握したいと考えている。

委員 意図は分かったが、回答する人にそれが伝わるのか不安がある。

委員 業種は多種多様だと思うので、検討をいただきたい。

7 閉会